

住民協働による上勝町榎原の棚田景観保全活動

徳島県上勝町

- 棚田景観保全のための遊休農地活用調査
- 1813年実測絵図に基づく歴史的景観の復元活動
- 景観に配慮したサイン計画
- 高齢者の地域住民を対象とした景観形成ガイドラインと棚田ガイドブックづくり
- 棚田ビジネスづくりを目指した「棚田景観学び塾」の開催

<p>概要</p>	<p>徳島県「榎原の棚田」は、平成11年に農林水産省より「全国棚田百選」に選定され、平成21年6月に榎原地区景観計画の策定、榎原地区文化的景観保存計画の策定がなされ、平成22年2月に文化庁より重要文化的景観に選定された。</p> <p>「榎原の棚田」では、高齢化・後継者不足が進展しており、遊休農地の増加による棚田景観の維持、榎原地区に伝わる歴史・文化・伝統の継承が危ぶまれている。</p> <p>そこで、住民協働による上勝町榎原の棚田景観保全活動として、地元農家も参加した棚田景観保全ワークショップによる合意形成を図りながら、主として次の5つの取組をおこなった。①遊休農地の活用方法調査、②歴史的景観の復元活動、③景観に配慮したサイン計画、④地域住民を対象とした景観形成ガイドラインと棚田ガイドブックづくり、⑤ビジネスづくりを目指した「棚田学び塾」開催</p>
<p>実施内容</p>	<p>①【遊休農地活用調査】榎原の棚田の遊休農地に関して、榎原地区住民に対する意向調査を行った。同時に、インターネットによる全国の遊休農地活用事例調査をもとに、地元農家と共に先進的な遊休農地活用事例である三重県いなべ市「川原白瀧の棚田」、千葉県鴨川市「大山千枚田」の視察調査を行った。そして、榎原地区における遊休農地活用モデルの構築を行った。</p> <p>②【1813年絵図に基づく歴史的景観の復元】榎原の棚田には、全国的にも貴重な文化10年(1813)に実測された榎原村分間絵図があり、現在も絵図に描かれている田畑や里道がほぼ当時のまま残っている。このため、現在の榎原地区における歴史的景観保存状況を調査・分析し、里道の復元作業、水車の復元を地元住民、及びワーキングホリデーを活用して実施した。</p> <p>③【景観に配慮したサイン計画】上勝町榎原地区景観計画における景観形成の基本方針に基づき、「榎原地区におけるサイン計画のあり方」「榎原地区におけるサイン計画の目的と配慮事項」を示した。 ※本サイン計画案は、平成22年3月に開催された上勝町主催の「上勝町景観計画検討委員会」において検討され、委員会承認を受けた。</p> <p>④【地域住民を対象とした景観ガイドラインづくり、ほか】地域住民を対象として高齢者にもわかりやすい景観情報を冊子にまとめた。 「上勝町榎原地区景観計画(H21年5月)」の景観形成基準は、「榎原地区の景観」「棚田の魅力」「景観を守る手引き」「申請の手引き」から構成される『景観形成ガイドライン-棚田景観を守る暮らしの手引き、22ページ』にまとめた。「榎原地区文化的景観保存計画」の棚田景観の情報や価値は、38テーマを1~2ページ読み切りで『榎原の棚田ガイドブック、85ページ』にまとめた。</p> <p>⑤【ビジネスづくりを目指した「棚田景観学び塾」】棚田景観を活用したビジネスづくりを目指して、地元農家等を対象として棚田ガイド養成のための「棚田景観学び塾」を開催した。学び塾の講師は、上勝町文化的景観検討委員会、上勝町景観計画検討委員会の委員が担当した。学び塾では、『榎原の棚田ガイドブック』の内容から、榎原の棚田景観の価値を、歴史、自然、生業、空間の観点からわかりやすく参加者に伝えた。</p>
<p>取組の成果</p>	<p>地域住民との協働により下記の成果を得た。</p> <p>①全国の遊休農地活用の知見が蓄積できた。榎原地区住民の遊休農地活用の意向が把握できた。榎原地区の棚田オーナー制度で実施されていない遊休農地を対象としたオーナー制度実施、棚田を活用したビジネスづくりの機運が高まった。視察に同行した地元農家、視察情報を共有した地元農家の意識が向上した。</p> <p>②1813年絵図の宅地、里道の現時点での状況が把握できた。絵図に描かれている里道の復元、水車復元(1基)ができた。これらは、地元住民のほか、ワーキングホリデーにより、上勝町外の人材の応援を得た。</p> <p>③榎原地区のサイン計画のあり方、目的、配慮事項が確定した。</p> <p>④高齢化する地域住民を対象とした『景観形成ガイドライン-棚田景観を守る暮らしの手引き』『榎原の棚田ガイドブック』の冊子が完成した。</p> <p>⑤地域住民等を対象とした学び塾を3回開催した。棚田ツーリズム展開の基礎となるガイド養成の場となった。</p>

今後の課題	<p>① 地元農家聞き取りにより、遊休農地の活用において、農地の賃貸・売買の可否、水利権、普段の農地の維持管理(草刈り、水管理等)の体制等の問題があることが判明した。</p> <p>② 継続的な復元活動を仲介する自立型の間接支援組織が必要と思われる。このためには、棚田ビジネスづくりより、経済的にも持続可能なモデル構築が不可欠である。</p> <p>③ 今後、本サイン計画の情報共有を、行政(上勝町各部署等)、地域住民へ十分周知していく必要がある。</p> <p>④ 「上勝町榎原地区景観計画」をもとに、『棚田景観を守る暮らしの手引き』が作成されたが、今後、地元住民等からの問い合わせに対応する体制づくりが必要となる。</p> <p>⑤ 棚田景観学び塾の継続のための、継続的な財源措置が必要となる。このため、自立型の棚田ビジネスモデル構築とその実践が求められる。</p>
今後の展開	<p>① 遊休農地を対象とした棚田オーナー制実施の可能性を検討を図る。</p> <p>② 継続的に、ワーキングホリデーを活用した実測絵図の里道復元を予定する。</p> <p>③ サイン計画の周知を図る。</p> <p>④⑤『棚田景観を守る暮らしの手引き』『榎原の棚田ガイドブック』を活用した「棚田景観学び塾」の継続開催を図る。</p> <p>⑤ 棚田ガイドの育成を図り、オーナー制、ブランド米、観光等の都市農村交流型の棚田ビジネスの展開により、定住者の増加、地元住民への副収入、雇用機会の創出を図る。</p>
市町村名	徳島県上勝町
部局／担当者名	上勝町教育委員会／新開晴美
連絡先	TEL : 0885-45-0111
リンク	上勝町HP http://www.kamikatsu.jp/ 関連リンク NPO法人郷の元気 http://satonogenki.net/

①復元された遊休農地視察(三重県、榎原地区農家の同行)



②ワーキングホリデーによる絵図里道の復元(里道の草刈り)



④高齢化した地域住民のための景観形成ガイドライン



④ビジネスづくりを目指した地域住民のための棚田ガイドブック



⑤ビジネスづくりを目指した「棚田景観学び塾」(地元農家等を対象)

